

大地震!!

— いざという時のために —

【麹町版】



この「しおり」は、皆さんが自宅にいて大きな地震が起こった時、とっさにとる行動として最も重要な8項目の行動を、実行すべき順番に沿って示したものです。ただし、地震の規模や、被害の大きさによって対応の仕方や順番は多少変わってきますし、やらなくても済む行動もあります。なぜそうしなければならないかよく考えてください。後半では、これらの行動をとるために必要な事前の備えについて解説しています。この「しおり」は、普段、目のつくところに置いておき、ときどき手にとって確認してください。

第1部 8項目の初動対応(その1)

自分の身を守る

自分の家を守る

被害の大きさを
見極め近隣を守る

地域を守り自分が
守られる

1. 身の安全を守る



上からの落下物から身を守ります。



とにかく頭を守ることが大切です。

昔は、「地震、火を消せ」と教えられたものですが、ガスのマイコンメーターや、感震消火装置付き火気器具の普及により、身を守る方が優先されるようになりました。

戸外で地震に遭った時も、すぐに落下物に気をつけてください。

2. 揺れが収まったら動き出す前に スリッパや室内履き等を履く



あわてて裸足で歩き回るのは危険です。



家族がけがをしなかったかを確認し、けがをしていたらその手当をします。

地震で割れたガラス・瀬戸物などで足を切らないように注意しましょう。そのためには、普段からやや底の厚いものを履くようにしておきましょう。軍手などもはめれば万全です。

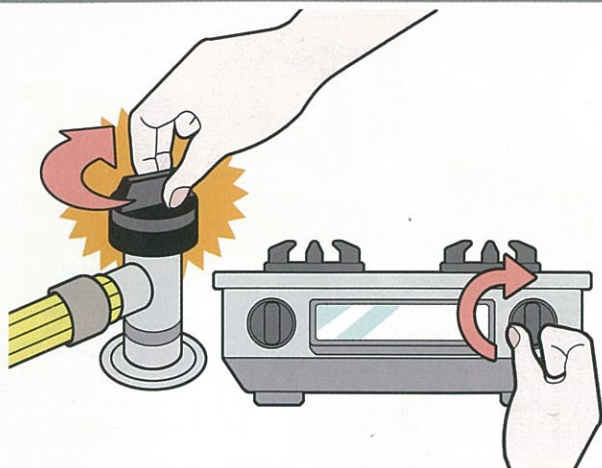
自分の身を守る

自分の家を守る

被害の大きさを
見極め近隣を守る

地域を守り自分が
守られる

3. 使っていた火気器具の元栓を全て止めてブレーカーを落とす



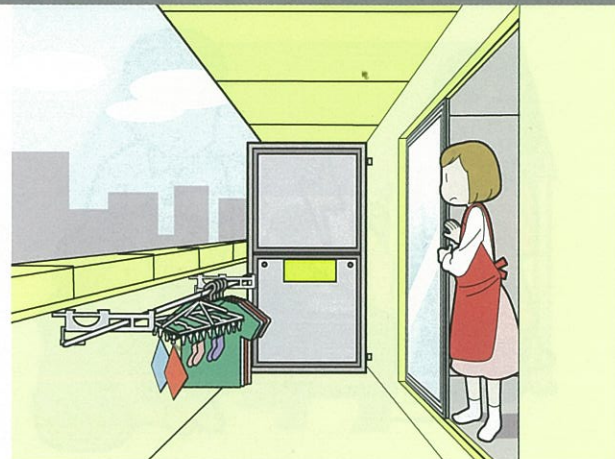
火は消えていても元栓を止めます。



ブレーカーを落とします。

地震の後は停電すると予想されますが、配線やコンセントに亀裂が入ったり、水槽のヒーターなどで復旧して通電した時に火の原因になります。そこで、スイッチを切るだけでなく、ブレーカーを落とし全ての電源の安全確認をします。

4. 出口を確保して「無事です」カードを貼り出す



ただし、火災の延焼危険がある時はベランダの窓は閉めます。



マグネットでつかない扉もあるので、両面テープなどで貼ってください。

地震でドアがゆがむと開かなくなり、部屋に閉じ込められてしまうので、すぐに出口を確保します。また、隣近所でお互いに無事であることを知らせるために、「無事です」カードを貼ることを決めているマンションや地域もあります。

第1部 8項目の初動対応(その2)

自分の身を守る

自分の家を守る

被害の大きさを
見極め近隣を守る

地域を守り自分が
守られる

5. 携帯ラジオの情報から自分で地域の被害の目安を立てる



ラジオは日頃から使う習慣をつけておいてください。



大きな被害があると、普段とは異なったすごいほこりと臭いがします。

地震後は、震源の場所、地震の規模、深さ、各地の震度について、ラジオなどで即時に報道されますが、地震被害の全貌がわかるのは数日かかります。したがって、各地の震度から地域で、あるいは東京全体でどのような被害が起きたかを自分なりに推定します。

6. 外の被害を見回り被害があったら対応する



消火活動は何よりも優先します。



倒壊した建物などの下敷きになっている人の救助や、けが人救護なども時間との勝負です。

地震後は、火災が起きても消防は来ないと考えてください。そこで、近所の人と協力して消火活動が必要となりますが、出火後15～30分以内が勝負です。マンションの場合、隣室や階下で出火していたら、窓からの類焼を防ぐため洗濯物を取り込んで避難します。

自分の身を守る

自分の家を守る

被害の大きさを
見極め近隣を守る

地域を守り自分が
守られる

7. 家族の安否を確認したり決めておいた集合場所で落ち合う



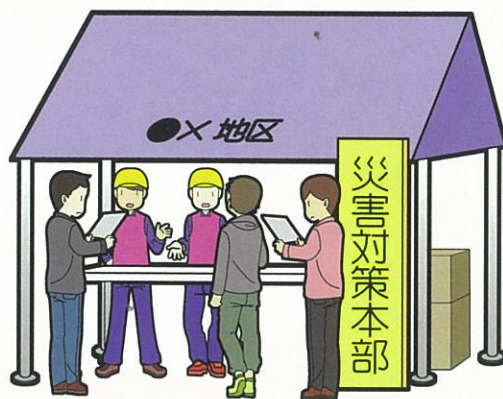
家にいる家族はやることが多く大変です。そこで、外出している方から家へ連絡します。



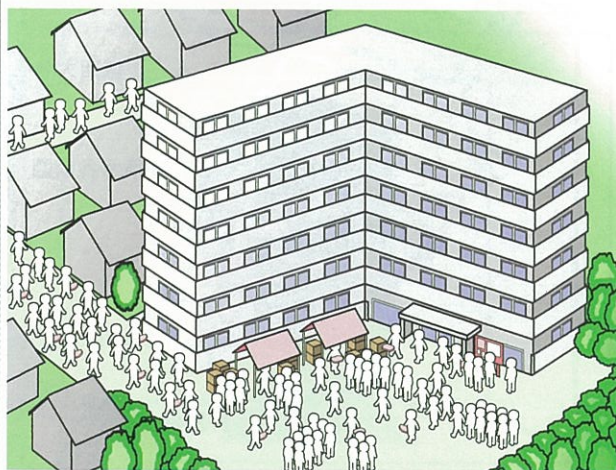
落ち合う場所は通常は避難所にします。

安否確認は、外出している方から家庭に連絡するというルールを確認しておくべきです。家が被災した場合、家族が落ち合う場所をあらかじめ決めておく必要があります。

8. 周りの情報を集め地域で協力する体制を作る



情報は地域の自主防災組織の災害対策本部または避難所へ行って集めます。



マンションの駐車場などは、地域の支援拠点として有効です。

家の中にいたのでは、周りがどうなっているか、行政がどのような支援をしているかといった情報はわからないので、自主防災組織による災害対策本部や小学校などの避難所へ行って情報を集めたり、救援物資の配給を受けます。マンションと地元の町会との協力も大切です。

第2部. 町会の防災マップ(麹町)

地域特性解説

麹町地区は早くからマンション建設が進み、分譲マンション数は区内の4割に及ぶなど良好な集合住宅が集積しており、区の夜間人口の3割強が居住している一方、経済の中心として多くの事業所が集中し、昼間人口は夜間人口の20倍を超えています。さらに、幼稚園、小学校から中、高、女学校、大学等がある都内有数の文教地区でもあります。

そして幹線道路沿いには商業施設の集積も進むとともに、近年、総合設計制度や再開発制度を利用した建築物の高層化による複合多機能型の地区計画も進められ、地域人口も増加傾向にあります。

マンション等集合住宅に居住する住民が95%を超える町会もあり、それらマンション等の防災対策と地域との協力体制の構築が求められており、中でも集合住宅の5割近くが旧耐震基準の昭和56年以前に建設されて建物の老朽化とともに居住者の高齢化が進んでいます。

地区内の建物については、比較的高層の建築物が多く、かつ密集エリアでもあり、避難所への避難経路の確保が必要でもあります。災害発生時、避難の障害となりうる看板、ガラス等の落下物や放置車両、倒壊する可能性のある電柱、塀、樹木等の対策を検討しておかなければなりません。

災害発生後の生活を維持するには、水道、電気、ガス、通信等ライフラインの確保が課題となります。その為には、事業者と協力して防災対策の推進、また予防や復旧のシステム対策等の公開による被害想定のお知らせおよび理解が求められて参ります。

麹町地区では、今後防災の観点からも総合設計制度や市街地再開発事業を促進すると共に、企業やホテル、大学等と連携した防災計画の推進も図っていくことが重要となります。



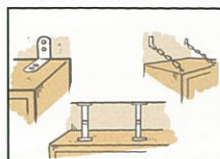
今回、町会の防災マップを作成しましたが、この他にも異常気象に伴う都市型水害、風害等にも十分に備える必要があります。これからも、地域の皆様のご意見を伺いながら、より良い地域の防災マップを作って参ります。

第2部 最低限必要な事前の防備のチェック

ここでは、最低限必要なものを解説しています。このしおりでチェックしながら、一つずつ準備してください。



家具の
転倒防止



地震によるけがの約40～50%が家具類の転倒・落下・移動によるものだという統計結果があります。このことから最も大切な地震対策だといえます。



消火器・簡易消
火剤の準備



出火に備えて必ず準備します。ただし使い方がわからないといざという時に使えないので、地域の防災訓練や防災館等で体験してください。また、一般の加圧式粉末消火器の有効年数は5年程度なので定期的な点検が必要です。



携帯ラジオと
懐中電灯の準備



電池のタイプを確かめること、また古い電池は放電して蓄電量が少なくなってしまうので、定期的に取り換えます。



寝室には常に履
きものを用意



ガラスを踏んでも大丈夫な底の厚いものを用意します。また、脱げないような紐で調節のできるスニーカーのような靴が望ましいです。



医薬品の常備と
手当のやり方を
習得



骨折・擦り傷・止血などの方法を覚えておきます。本を見るだけではなく、訓練に参加することが大切です。災害後、普段服用している薬を処方してもらうためには、「薬手帳」が必要です。



「無事です」
カードの準備



マンションあるいは地域で安否確認の方法を事前に決めておく必要があります。



災害用伝言
ダイヤル(171)
の使い方を習得



外出している家族の安否確認のために必要不可欠です。NTTでは毎月1日と15日、ならびに正月三が日や防災週間に体験利用日を設定しているので、家族で体験してください。



7日分の食糧・
水の備蓄



災害用として備蓄すると、いつ頃に期限が来てしまうので、毎月少しずつ消費し、その分を買い足すようにします。近所の方と「備蓄品処分パーティ」等をやるのも楽しいかも知れません。

区民集会 防災のしおり

発行年月： 平成27年3月

発 行： 麹町出張所地区連合町会

区民集会運営協議会